

高齢者施設で発生したインフルエンザへの対応

～感染管理認定看護師の介入～

三ツ倉 裕子¹⁾ 滝原 典子²⁾ 高橋 陽子³⁾ 江熊 広海⁴⁾ 美原 盤⁵⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 医療関連感染対策室

2) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 看護介護部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

4) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 循環器内科

5) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[はじめに] 高齢者施設は加齢や基礎疾患などにより感染防御機能が低下した高齢者が集団で生活しており、一旦インフルエンザが発生すると集団感染を起こしやすい環境となっている。集団感染を発生させないためには、いかに病原体を持ち込まず流行を防ぐ環境を作るかが重要となる。今回、施設で発生したインフルエンザに対し感染管理認定看護師（CNIC）が介入し行った対策をまとめ報告する。

[経過] 平成 30 年 2 月 20 日、同フロア内の 3 名の入所者がインフルエンザ陽性となった。翌 21 日に入所者 1 名、22 日と 24 日にスタッフが 1 名ずつ、計 6 名が発症した。その後新たな発症者はおらず、施設内の発熱者も減少し 3 月 6 日終息となった。

[介入と対策] 2 月 20 日、発症者と同じフロアの入所者に対し迅速検査を行うと共にタミフルの予防投与が実施された。CNIC は入所者の症候性サーベイランスと、感染期間中に短期入所した利用者やスタッフの状況を確認した。その結果、感染源は 2 月 16～17 日に短期入所した利用者の持ち込みである可能性があると考えられた。病原体を持ち込まないためには入所時の観察が重要となることや、観察時のポイントをフィードバックした。また、高頻度接触面の清掃と手指衛生を徹底する事を伝え、その実施状況を確認した。対策の徹底を図る事と正確な情報を発信する事を目的に、全職員への研修を計 10 回開催した。研修は部署で実施されているケアを確認しながら行った。部署内での研修は、問題点の抽出がしやすく、意見や疑問へも適切に介入することができ有用であった。最後にサーベイランス結果を含めた報告を、施設の全管理者に対し 3 月 27 日に実施した。

[まとめ] CNIC が介入したことにより、対策の改善につながった。急速な高齢化が進み高齢者施設の需要が増加する中、施設での感染対策もその重要性が増している。施設

での集団感染を起こさないためには、日頃から病院の感染防止チームや CNIC との連携が必要である。